報告事項

2023 年度事業報告

I 総括

2023 年度は、新型コロナウイルス感染に対する懸念がほぼ解消しつつあったことを受けて、全国大会(JIA 建築家大会 2023 常滑)や支部大会といったイベントの開催、地域密着の公益事業、さらに国際交流活動をはじめとする日本建築家協会(JIA)の活動は、本部・支部・地域会とも、コロナ禍以前と概ね同様の状況に回復することができました。

そうした活動に加え、前年度から掲げている基本テーマ「頼りになる建築家、頼りになる JIA」にもとづき、社会に寄り添う建築家の仕事と活動を市民の方々に理解していただくために、SNS などの新たな媒体も活用した情報発信を積極的に行いました。

また、将来を支える若い世代の人材育成を重視し、教育活動に力を入れるとともに、会員の活動への参加と会員同士の交流を促進しました。

[2023 年度の重点施策]

本年度に実施した重点施策は以下の通りです。

1. 「頼りになる建築家、頼りになる JIA」の社会への発信

「頼りになる建築家、頼りになる JIA」のテーマに沿って、デジタルツール等の活用をはじめ、社会に向けた情報発信の拡充に力を入れています。

本年度は、リニューアル後の本部ホームページの公開、SNS 媒体（インスタグラム）による動画コンテンツの公開を実施しました。また、「WEB サイト版建築年鑑」の掲載等にも取り組みました。オンライン活用によるセミナーやイベント等の開催を通じて、広く社会に対して積極的な情報発信を行っています。

2. 「地域に根ざした」公益事業の推進

建築文化の振興のためのイベント開催、まちづくりへの支援、災害発生時や復旧・復興への支援、建築物の保存・再生活動、消費者に対する建築相談をはじめ、「地域に根ざした」さまざまな公益事業を支部・地域会を主体に実施しています。

本年度は、北海道の建築の歴史をテーマとする建築展の道内巡回イベント、東日本大震災の復興支援を統括するイベント開催をはじめ、地域ごとに主催する各種表彰事業や学生卒業設計コンクール、建築相談活動等、幅広い活動を行いました。

なお、2023 年 5 月、2024 年元旦と続けて発生した能登半島地震に対して、JIA 本部および現地に対策本部を設置して、被災地域の支援活動を実施しました。また、災害対策活動の充実のために「災害対策積立資産(災害ファンド)」の支出範囲を拡大しています。

3. 「人材の育成と活性化」施策の充実

各種教育・育成プログラムの拡充と合わせて、建築に係る人材の育成・活性化を推進してい

ます。特に将来の建築設計界と JIA を支える若手の育成を重視しています。

本年度は、新たな教育プログラム「フィールドトリップ JIA」の受賞作品を対象とした見学・講習会の創設をはじめ、建築家継続職能教育（CPD）プログラムの拡充とともに、多くの方の受講を容易にするセミナー等のアーカイブス化を進めています。

また、オープンデスクの学生負担無料化をはじめ、学生会員の入会促進と学生同士の交流への支援を実施しました。さらに、会員同士の交流促進を図るため、公益活動への寄与も重視した会員情報データベース「メンバーネットワークサービス（仮称）」の構築に取り組んでいます。

4.「業務環境や社会の変化」への対応

近年の技術革新や市場の変化への対応、さらに大きな社会問題への取り組みが求められており、こうした業務環境や社会の変化への対応に力を入れています。

本年度は、設計業務報酬基準の改定(2024年1月「告示第8号」公示)に向けて、適正な基準改正が行われるよう、国交省の検討委員会に対してきめ細かな意見提出を行いました。

また、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の普及促進のため、国交省等が主催する各種会議への参加のほか、建築設計三団体が連携して BIM の活用に関する具体的な検討を実施しました。

建築界においても重要課題である「カーボンニュートラル」実現に向けて、改正が行われた建築物省エネ法および建築基準法の会員への周知に加えて、支部との連携によりオンライン方式のセミナーを開催し、会員以外の多数の方々にも参加していただきました。

5.「海外ネットワーク」の強化と「海外情報」の収集

UIA(国際建築家連合)や ARCASIA(アジア建築家評議会)、海外建築関連団体等とのネットワークの強化とあわせて、海外の情報収集や調査研究活動を実施しています。

本年度は、UIA 大会(デンマーク)や ARCASIA 大会(フィリピン)等への現地参加、オンライン活用の国際会議参加に加え、全国大会開催にあわせた海外協定締結団体との国際会議開催、支部・地域会による海外団体との交流を行いました。

また、子供を対象とした建築普及活動を評価する UIA 主催の「ゴールデンキューブ賞」に応募し、学校部門で最優秀賞、出版部門で特別賞を受賞しました。

6.「建築家資格制度」のあり方の検討

「建築家資格制度（登録建築家）」について、現行制度の適切な運営とともに、社会や建築界の動向にも十分留意しながら、統括設計者の職能の明確化と社会からの認知向上を目指して、今後の制度のあり方の検討を続けています。

本年度は、前年度に引き続き、理事会と関係委員会での検討に加えて、全国大会や各支部大会等でのシンポジウム・セミナーを開催して、会員の意見交換を進めるとともに、課題の整理を進めました。

[2023 年度の事業分野別の主な活動]

2023 年度の主な活動を事業分野別にまとめました。活動の具体的内容については、委員会・全国会議等の活動報告および支部の活動報告にも別途記載しています。

1. 建築環境整備事業

1) 環境保全活動

住宅をはじめとする建築物や都市の環境保全、省エネルギー化の推進を目的に、社会や関係行政への普及広報活動を行いました。カーボンニュートラル実現に向けて、オンライン方式のセミナー「2050 カーボンニュートラル連続セミナー第 4 期」を計 3 回開催しました。

2) まちづくり・建築物保存再生活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮したまちづくりをめざした活動として、沖縄県「与那原町商業地区まちづくり計画」への支援をはじめ自治体やまちづくり団体等への協力等、地域に密着した取組みを実施しました。また、価値の高い建築物の保存再生に関しても、関係行政に対する提言・支援を行うとともに、「文化財修復塾」の運営や他団体と連携して建築物の調査等の活動を実施しました。

3) 災害対策活動

近年頻発する地震等の災害に対して、引き続き、支部・地域会を中心に地域に密着した災害発生時や復興に関する支援を続けています。東日本大震災の復興を統括するイベント開催等を開催、能登半島における 2 度の大規模震災発生に対しては、現地および本部に災害対策本部を設置し、自治体等と協力して支援活動を行う体制をとっています。

4) 建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会に設置した建築相談委員会や建築相談室により、住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

2. 建築文化育成・交流事業

1) 表彰活動

「JIA 日本建築大賞」「JIA 優秀建築賞」「JIA 新人賞」「JIA 25 年賞」「JIA 環境建築賞」の表彰事業を主催しました。受賞作品を収録した JIA 建築年鑑の出版(印刷版および WEB サイト版)を行いました。さらに支部・地域会では、地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会の主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

2) 交流活動

広く社会や建築関係者に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、全国大会の開催に加え、支部・地域会主体に、建築文化に関するシンポジウム・セミナーの開催、そして建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実施しました。

3) 国際協力活動

UIA、ARCASIA の大会・会議、海外の建築関連団体との会議に現地またはオンラインで参加したほか、UIA の「ゴールデンキューブ賞」への協力や海外協定締結団体との国際会議 (IPF) を開催を実施しました。支部等による海外団体との交流も実施しました。また、本年度の国際活動を報告書にまとめ、ホームページへの掲載を行いました。

4) 教育・育成活動

学生に対する教育・育成活動として、協力設計事務所での短期実習を行う「オープンデスク」の実施、会員や建築関係者等に向けた各種講演会・セミナー等の開催といった教育・育成活動を実施しました。また、建築設計業務を志す学生同士の交流活動を支援しました。

3. 建築制度整備事業

1) 継続職能研修 (CPD) 制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定 (本年度の認定プログラム総数 1,884 件) をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、オンライン受講可能プログラムの拡大 (2024 年 3 月末時点コンテンツ数 65 件) や管理システムの高度化を進めました。

2) 建築家資格制度運営

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施しました (2024 年 4 月 1 日現在建築家資格制度登録者数見込み 1,423 人)。今後の資格制度のあり方等について検討を行いました。

3) 建築関連の法・制度の調査研究・提言

設計業務報酬基準 (告示 98 号) の改定に向けた国交省の検討委員会に参加して意見提出をしました。また、国交省、東京都、神奈川県及び建築設計三団体で構成する「公共建築設計懇談会」に参加し、公共建築の質の向上のための提案を実施しました。また、BIM の普及促進のため、建築設計三団体が連携して、国交省の施策への支援を実施しました。

II 2023 年度通常総会

2023 年度通常総会を 6 月 23 日午後 3 時より 3 時 30 分まで、建築家会館1階大ホール(東京)にて開催しました。正会員数 3,246 名の内、書面表決者 1,002 名、委任状提出者 1,216 名を含む出席者総数 2,258 名により総会が成立し、議長に渡邊太海会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

[2023 年度総会議案]

- 第1号議案 2022 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録の承認の件
- 第2号議案 準会員・協力会員の入会金・会費一部改正の件
- 第3号議案 理事及び監事の選任の件
- 第4号議案 名誉会員選任の件

III 2023 年度理事会

2023 年度理事会を、対面で 6 回、zoom によるオンラインで 4 回、および書面審議 4 回の合計 14 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。

[2023 年度理事会議事]

1) 第 300 回理事会(対面)(4 月 14 日開催)

- ①入退会者について
- ②非正会員委員就任について
- ③広報委員会 WG 設置および非正会員委員就任について
- ④東北および中国支部 準会員・協力会員入会申込書式改定について
- ⑤正会員以外から選任する役員(理事)候補者の選任について
- ⑥委員会規程に関する運用基準変更について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

2) 第 301 回理事会(書面)(4 月 21 日開催)

- ①2023 年度優秀建築選・あかりコンペ審査委員について

3) 第 302 回理事会(オンライン)(5 月 19 日開催)

- ①懲戒審査委員会報告について

4) 第 303 回理事会(対面)(5 月 30 日開催)

- ①入退会者について
- ②2023 年度通常総会開催及び議案について
 - ・2022 年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録について
 - ・準会員・協力会員の入会金・会費一部改正について
 - ・理事及び監事の選任について
 - ・名誉会員選任について
 - ・2022 年度事業報告、2023 年度事業計画及び予算(報告)について
- ③特定費用準備資金および資産取得資金の取崩し・積立てについて
- ④支部規約改正案(関東甲信越支部・四国支部)について
- ⑤四国支部 準会員・協力会員入会申込書式改定案について
- ⑥2023 年度委員会構成案について

- ⑦活動及び業務執行状況報告
- 5) 第 304 回理事会(対面)(6月23日開催)
 - ①副会長、専務理事及び支部長選任について
 - ②入退会者について
 - ③委員会委員等について
 - ④活動及び業務執行状況報告
- 6) 第 305 回理事会(オンライン)(7月18日開催)
 - ①被懲戒会員「不服申し立て」について
- 7) 第 306 回理事会(書面)(7月24日開催)
 - ①入退会者について
- 8) 第 307 回理事会(対面)(8月22日開催)
 - ①入退会者について
 - ②教育委員会 TF 設置および主査就任について
 - ③九州支部 準会員・協力会員入会申込書式改正案について
 - ④災害対策積立資産運用規程改正案について
 - ⑤活動及び業務執行状況報告
- 9) 第 308 回理事会(オンライン)(10月6日開催)
 - ①入退会者について
 - ②選挙管理委員会委員就任について
 - ③沖縄支部 準会員・協力会員入会申込書式改正案について
 - ④活動及び業務執行状況報告
- 10) 第 309 回理事会(書面)(10月27日開催)
 - ①入退会者について
- 11) 第 310 回理事会(対面)(12月12日開催)
 - ①入退会者について
 - ②教育委員会 TF 名称変更について
 - ③「JIA 公益事業活動助成」採択結果について
 - ④「電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程(案)」について
 - ⑤活動及び業務執行状況報告
- 12) 第 311 回理事会(書面)(1月19日開催)
 - ①入退会者について
- 13) 第 312 回理事会(オンライン)(2月16日開催)
 - ①入退会者について
 - ②「JIA 公益事業活動助成」採択結果について
 - ③五会「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援等に関する協力協定」変更について
 - ④2024 年度本部予算(事業別)(案)について
 - ⑤近畿支部準会員・協力会員入会申込書式改正案について
 - ⑥文化財修復塾認定委員会認定委員就任について

⑦能登半島地震現地災害対策本部副本部長就任について

⑧活動及び業務執行状況報告

14) 第 313 回理事会(対面) (3 月 12 日開催)

①入退会者について

②会員資格喪失者について

③フェロー会員について

④委員会委員就任について

⑤特別委員会期限延長について

⑥能登半島地震被災者会費免除について

⑦「支部・地域会における業務受託の事前手続きに関するガイドライン(案)」および「支部・地域会における補助金・助成金の申請手続きに関するガイドライン(案)」について

⑧2024 年度事業計画(案)および予算(案)について

⑨2025 年度 JIA 建築家大会開催について

⑩活動及び業務執行状況報告

IV 建築家認定評議会等

1. 建築家認定評議会

2023 年度は建築家認定評議会を Zoom によるオンラインで 2 回開催しました。議事は以下のとおりです。

1) 第 1 回臨時建築家認定評議会(2023 年 7 月 6 日)

- ・2022 年度 第2回(定期)建築家認定評議会の議事録の承認
- ・登録建築家1名の登録削除の可否、ならびに 削除の場合の期間
- ・今後の随時の登録削除について(報告事項)

2) 第 2 回定期建築家認定評議会(2024 年 3 月 18 日)

- ・登録建築家の認定、更新、再登録について
新規登録 申請者 13 名 合格者 13 名 (非会員 1 名)
更新 申請者 241 名 合格者 241 名 (更新率 69.7%)
再登録 申請者 33 名 合格者 33 名
登録総数は 1, 423 名となり、昨年度より 72 名の減少(前年度から 4.8%減少)となりました。
正会員に占める登録建築家の割合は 40.6%(前年から 1.4%減少)となりました。
- ・支部からの報告
- ・JIA における、建築家資格制度の改革の検討の動きについて
- ・建築家資格制度についての意見交換

2. 本部建築家資格制度実務委員会

2023 年度、本部建築家資格制度実務委員会は計 9 回、うち 6 回を職能・資格制度委員会との合同で開催しました。また、臨時・定時の認定評議会に臨席、ほかメール稟議による意見聴取・決裁を計 11 回、実施しました。

主な作業は以下のとおりです。

- ・「認定書」交付の廃止に伴い、「認定通知書」「認定条件の通知書」「登録保留付認定通知書」を制定
- ・資格制度のホームページに掲載する「登録申請説明書」と「申請入力の手引き」の改定
- ・新規登録対象のJIA会員、更新対象者全員、昨年度未更新による再登録対象者、これらへの申請呼掛けおよび説明メールの配信

- ・ 支部実務委員会と協働しての、新規・更新・再登録申請者の各調査、確認作業
- ・ 2023 年度第 1 回(臨時)および第 2 回(通常)認定評議会(いずれもオンライン開催)の準備と補佐
- ・ 理事(懇談)会での資格制度の議論に呼応し、 職能・資格制度委員会との連名で意見書を提出
4 月 12 日「建築家資格制度に関する JIA の協議について」
「理事懇談会での議論をふまえての、当面のタスク(検討たたき台)」
5 月 9 日「提言ならびに 4 月の意見書への補足」
5 月 30 日「『新 資格制度』に求められるもの(提言)」
8 月 6 日「士会連合会との協議の具体像に向けた提案 + 両委員会からの提言 3 回の要点」
- ・ 理事懇談会「意見整理グループ」および職能・資格制度委員会との 3 者共催での、JIA 常滑大会ウィーク参加シンポジウム「資格制度のこれからを考える」の企画および実施。 詳細な報告記事の JIA マガジンへの掲載(計 2 回)。
- ・ 職能・資格制度委員会との共催での、JIA 常滑大会現地プログラム「西尾市コンペから見えてくる、建築設計者の資格の将来像～シンポジウムを受け、改めて考える」の企画および実施

V 本部役員候補者選挙

2023 年 11 月 15 日発行の「JIA MAGAZINE 417 号」で 2024 年度本部役員候補者選挙告示を行い、2024 年 1 月 15 日に役員候補者の確定について第 2 回告示を行いました。

[2024 年度役員候補者(2024 年度総会にて役員選任を審議する予定)]

(氏名)		(所属支部)
【理事候補者】		
佐藤 尚巳	(再任)	関東甲信越支部
小西 彦仁	(再任)	北海道支部
早坂 陽		東北支部
渡邊 太海	(再任)	関東甲信越支部
田口 知子		関東甲信越支部
安川 智		関東甲信越支部
八木 佐千子		関東甲信越支部
浅井 裕雄		東海支部
松尾 和生	(再任)	近畿支部
萬野 光雄		近畿支部
高志 俊明		中国支部
伊月 善彦	(再任)	四国支部
佐々木 寿久		九州支部
【監事候補者】		
笠井 隆司	(再任)	近畿支部

VI 委員会活動等報告

1. 委員会活動

1) 職能・資格制度委員会

職能・資格制度委員会は計 8 回、うち職能・資格制度単独で 2 回(6/26、9/8)、本部実務委員会との合同で 6 回(4/19、5/29、8/3、10/23、12/20、2/7)開催しました。 その他 WG 会議、メールによる稟議を行

いました。

今年度は、理事懇談会の「新資格制度」討議に対しての委員長他の委員会からの参加・討議、またこれに対する専門委員会として、これに沿った検討を行ったため、前年までのような独自の検討作業は行いませんでした。

主な作業は以下のとおりです。

- ・ 資格制度アーカイブについての検討
- ・ 理事(懇談)会での資格制度の議論に呼応し、本部建築制度実務委員会との連名で意見書を提出
4月12日「建築家資格制度に関するJIAの協議について」
「理事懇談会での議論をふまえての、当面のタスク(検討たたき台)」
5月9日「提言ならびに4月の意見書への補足」
5月30日「『新資格制度』に求められるもの(提言)」
8月6日「士会連合会との協議の具体像に向けた提案 + 両委員会からの提言3回の要点」
- ・ 8月10日 東海支部会員集会(職能・資格制度について)にて、南委員長がパネリストとして参加
- ・ 10月16日 理事懇談会「意見整理グループ」および本部建築制度実務委員会との3者共催での、JIA常滑大会ウィーク参加シンポジウム「資格制度のこれからを考える」の企画および実施。シンポジウムの分析および詳細な報告記事のJIAマガジンへの掲載(計2回)。
- ・ 11月10日 本部建築家資格制度実務委員会との共催での、JIA常滑大会現地プログラム「西尾市コンペから見えてくる、建築設計者の資格の将来像～シンポジウムを受け、改めて考える」の企画および実施、またそのアンケートの分析

2)業務委員会

2023年度の業務委員会活動として、オンライン会議やメール等による情報共有を中心に活動を行ってまいりました。これまで継続検討事項であった「業務報酬基準の見直しについては、「告示第8号」の交付に伴って一つの区切りとなりましたが、見直し検討に伴う経緯や継続する課題についても共有し、業務委員会として今後に向けた議題について意見交換しています。また、各種団体からの日本建築家協会へのヒアリングや委員会参加要請などの依頼事項についても委員会にて検討し、参加の是非や対応する委員の人選を行ってまいりました。

<ワーキンググループ活動>

①建賠WG

建築に関する事故防止と建築家の責任の理解促進のため、主として以下の項目を実施しました。

- ・ 約款とパンフレットとの相違点があったため、約款を修正しました。
- ・ JIA顧問弁護士の竹川忠芳先生をお招きして「消費者保護に伴う建築家の責任」と題してセミナーを開催しました。
- ・ 建築に関する事故防止を目的に「JIA建築家賠償責任保険図解事故例集(支払対象外となった事案)」の発行に協力しました。

②約款WG

- ・ 「七会連合工事請負契約約款委員会」及び「四会連合建築設計・監理等委託契約約款研究会」活動と連動してWGを年8回開催し、JIA会員としての意見集約を図り、具体的意見として提案を行いました。また両委員会に委員を選任し活動に参画しました。

- ・七会工事請負約款の調査研究活動として、下請工事用と既存改修を伴う工事請負約款に関する2つの部会(下請約款部会、改修約款検討部会)が設置されたので、JIAとしての意見集約を図り、その活動に引き続き参画しています。
- ・当WG委員も参画した七会のマンション修繕工事契約約款と四会のマンション修繕設監契約約款を統合した解説書「マンション修繕の設計監理と工事の契約の解説」が出版されました。

③仕様書WG

本WGの2023年度の活動としては、一部メンバー交替による新たなWG体制にて、国土交通省大臣官房官庁営繕部からの「公共建築工事標準仕様書令和7年版」の改定への意見照会に対応しました。具体的にはWGメンバーへの意見徴収を実施し、記載内容の変更や過不足項目等を一覧表に記載し、国交省営繕部宛回答を提出しています。対象の標準仕様書は「建築工事編」「建築改修工事編」「木造工事編」の三編となっています。

2023年度の対応は2回、2023年5月の「改定案」(2023年4月21日受領)への対応、および2024年3月の「改定一次案」(2024年2月15日受領)への対応となっています。最終の改定二次案への対応は今秋予定されており、「標準仕様書」は来年2025年3月末改定の予定です。

3)財務委員会

JIAの健全な財政のあり方として、受取会費と事業収益を軸とした経常収益の確保と本部・支部・地域会の収支・財務の健全化を図るとともに、会員減少の推移と遊休保有財産保有制限に関する対応(公益目的事業の積極的実施)の動向を踏まえ、経常収支の安定化を図ります。2023年度は、委員会ミッションに基づき下記の活動を行いました。

- ・収支の把握と分析、予算策定における提言(予算案の確認、重点項目の整理)
- ・公益目的事業費率について、正味財産増減推移における比率確認
- ・事業活動助成の審査(新規7件採択、報告5件承認)
- ・国際交流基金、災害ファンド等の資産運用に関する報告確認(災害対策積立資産運用規程の改正、災害対策積立資産抛出の審査)

4)総務委員会

総務委員会のミッションは「本会の運営に関する総務事項の管理」です。全国の支部から参加する12名の委員を中心に、毎月の委員会で慎重な協議を行っています。

昨年度の主な活動内容は下記のとおりです。

- ・入退会審査
- ・委員会構成審査
- ・オンライン入会の手法検討
- ・WEBサイト情報漏洩対応
- ・「支部・地域会における業務受託の事前手続きに関するガイドライン(案)」策定
- ・「支部・地域会における補助金・助成金の申請手続きに関するガイドライン(案)」策定
- ・フェロー会員推薦審査
- ・能登半島地震被災者の会費免除審査

<ワーキンググループ活動>

①知財 WG

知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会および知的生産者選定支援機構の活動に対応する JIA 内部組織として、法整備連絡協議会およびシンポジウムの事務局支援をしました。

また、選定支援機構の運営改善に向けた検討および、プロポーザル等の運用に係る課題の整理と地方自治体への提案についての検討・議論を進め、次年度に継続することとしました。

5) 広報委員会

広報委員会の主たる活動である「社会に向けた発信」について報告します。HP では一般向け WEB サイトのトップページを更新して 2023 年 4 月から公開しました。公開後の運用状況などは HP 保守 WG の報告、そして建築家 PR 動画推進 WG のインスタグラム投稿については当該 WG の報告をご確認ください。またリーフレット検討チームは A3 版二つ折と A4 版三つ折の 2 種を作成しました。

JIA マガジン編集 WG は、会員の為になる誌面づくりに向けて「活動紹介」などのコンテンツの充実に努力しています。また毎月の広報委員会では、委員が各 WG 報告や各支部活動報告を受けて意見交換を行い、委員会責務を果たすため真摯に取り組んでいます。

<ワーキンググループ活動>

①HP 保守 WG

HP 保守 WG では、投稿のルール設定・ページ修正提案・トップページ写真など、本部 HP 運用の方針や保守内容が話し合われました。具体的には、各支部の建築相談ページへのリンク、国際委員会からの指摘の検討、文化財修復塾のページ修正の提案、HP 運用についての指針、投稿依頼の扱い、JIA 全国大会等の大型バナー設置、建築年鑑のバナーの常設、R6 年能登半島地震に関する特設ページ設置と災害対策会議ページの修正、2024 年の TOP ページ写真の募集および選定、などを議論・検討し、それに基づいて本部 HP の保守を実施しました。

②建築家 PR 動画推進 WG

JIA 公式インスタグラムへの投稿を 2023 年 4 月より開始し、2024 年 3 月末までにリール動画(静止画のスライドショーによる動画)含めて約 420 件の投稿を行い、約 2,000 フォロワーを獲得しています。リール動画で最も人気の投稿「特集: 公民館 vol.1」は、累積約 9,800 ビューの視聴数を記録しています。

また、月 1 回ペース(通算 14 回)で WG を開催し、専門家の意見も聞きながら、一般市民や若い世代に向けて建築家の活動を広報するための、SNS を含めた新しいメディア戦略のあり方について継続的に議論を重ねてきました。

6) 教育委員会

教育委員会では今年度、①若手会員への教育活動の活性化と②一般市民への JIA のプレゼンスを高めることを目指し、その認知度の向上を通して、地域社会における「建築および建築家の価値」の意識醸成を目的とした教育活動の実施を活動方針に立てました。

①については 2 月 25 日～27 日までの 3 日間、JIA リフレッシュセミナーを 4 年ぶりに開催。各支部のご協力を得て全国から 12 名の会員が参加し無事終了いたしました。

②については 3 月 10 日に今回初めての試みである JIA フィールドトリップ(JIA 日本建築大賞受賞作品建築見学会・講演会)を開催。78 名(JIA 会員 30 名、一般 48 名)の参加がありました。

何れの事業も参加者より好評を得ており次年度以降の継続開催を目指しています。

7)表彰委員会

表彰委員会では、例年通り、日本建築大賞・優秀建築賞、新人賞、25年賞、環境建築賞を実施しました。あかりコンペも再開し、常滑大会で授賞式も行いました。4賞合同の表彰式も6月14日に開催予定です。また、審査員の謝金について、議論を重ね平等性を優先し改定予定です。

8)国際委員会

1. JIA が加盟する国際団体を通じての活動:UIA コペンハーゲン大会への参加、フィリピンでの ARCASIA Forum への参加を行いました。また、UIA カウンシル会議(パリ)へ参加しました。
2. JIA の協定締結国(協会)との定期的な活動:AIA 大会(サンフランシスコ)、ASA 大会(バンコク)、KIA 大会(ソウル)に参加しました。
3. 他国建築家協会との協働イベント: KIA(韓国)の島建築委員会と JIA 四国支部によるセミナーを主催しました。
4. 他国建築家協会来訪による活動:JIA 常滑大会での International Presidents' Forum(AIA、ASA、KIRA、KIA および SIA 参加)を主催しました。
5. JIA 支部等による都市間交流や視察の支援:九州支部(北福岡地域会、鹿児島地域会)と沖縄支部の国際活動をサポートしました。
6. 国際委員会が主催するイベント:ゴールデンキューブ賞の受賞者によるウェビナーを開催しました。
7. その他:UIA の Social Habitat 委員会および Professional Practice 委員会の Web 会議参加、ARCASIA の AHPG と ACGSA のウェビナーでの登壇、ARCASIA の ACYA の Web 会議参加などの委員会活動を行いました。

9)CPD 評議会

毎月1回 CPD プログラムの認定審査を行う評議会を開催し、その間にプログラムの開催日が次回委員会より前のものの審査について、メール審査を計14回行い、今年度全体で、新規プロバイダーの5件の認定と合わせ、合計1,884件のプログラムを認定しました。

最近の課題は、令和6年能登半島地震への支援活動について、CPD実績の登録期間を事後も認める見直しを検討中です。現在、応急危険度判定に限定されている事後登録を、専門家派遣としての災害対策支援活動に拡張すべく、普及センター等と連携の上、CPD運営会議に諮問する予定です。

10)懲戒審査委員会

理事会の付託を受けて、正会員1名の懲戒について審査を行い、理事会に退会勧告処分相当との審査結果を報告し、理事会承認を受けました。また、被懲戒会員からの不服申し立てに際し、理事会に説明を行い、理事会で再審査を行わないことが議決されました。

2. 必要時に立ち上げる委員会

1)選挙管理委員会

2023年10月11日開催の第1回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日

程等を決定し、11月15日に第1回告示を行いました。12月25日の立候補締切り日までに理事候補者、監事候補者とも候補者数と定員が同数であったため、投票は実施せず、候補者確定の第2回告示を2024年1月15日に行いました。候補者等については前述の「V 本部役員候補者選挙」に記載しています。

2) 名誉会員選考委員会

2023年度通常総会に推挙する名誉会員について、5月18日に委員会を開催し、支部推薦3名、海外推薦2名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【支部推薦】 栗生明会員(関東甲信越支部)
山口洋一郎会員(関東甲信越支部)
村重保則会員(中国支部)

【海外推薦】 エミリーグランスタッフライス氏(AIA 会長)
チョンウィヨン氏(KIA 会長)

3. 特別委員会

1) BIM 特別委員会

昨年に引き続き、建築設計三会(日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、当協会)にて建築BIM推進会議及び部会等と、設計実務者が実際に使用できる事を目途に意見交換を行いました。

建築BIM推進会議配下の審査TF(タスクフォース)「BIMによる建築確認の環境整備」にて2026年以降にBIMによる確認申請の実施予定ですが、建築設計三会としてTFとの情報共有、意見交換を行っています。

同様に既に国発注案件のBIM化が進められていますが、大臣官房官庁営繕部が進めている「官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会」においても、建築設計三会として情報共有、意見交換を行っています。

いずれについても「設計BIMワークフローガイドライン 建築設計三会(第1版)」に基づいて、各部会、TFの検討が進められるように対応をしています。

2) オンライン/リモート対応や環境整備に特化した特別委員会

会員のデータベースを再構築してMNS(メンバーネットワークサービス)を作成する作業を前期より続けてきました。途中幾つかの課題に遭遇しましたが、製作会社の尽力および会員皆様のご理解を頂き、デモができる状況まで到達しました。年度末には、全支部へ参加者を募り運用テストを行い、使い勝手を確認するとともに、デザイン面での充実と運用への手引き(最小限の規約やマニュアル)に取りかかりました。

完成後には、技能や経験を開示することで、会員間の交流や連携・協働を促し、社会へ建築家の発信と啓発を手助けする一つとして、公益に寄与できることを目指します。

3) 業務報酬基準特別委員会

複数年にわたる検討を経て、漸く告示施行・ガイドライン発行にたどり着いた印象です。調査対象期間が限られたことから、従来の統計処理に対して、十分なサンプルが集まらず、適切な告示に導くための検討に多くの時間と知恵を要しました。改定に至らなかった類型も複数ありますが、その状況に比して、一

定の成果が得られたものと考えています。当委員会も役割を終えることとなりますので、今後の課題について、JIA MAGAZINE にも掲載いただきました。確実に次に引き継いでください。ご協力いただいた会員の皆様方に心より感謝申し上げます。

4. 全国会議

1) JIA環境会議

環境配慮に対して建築家としての具体的な知見を JIA 全体で共有し、かつ発信し続けることが大切であると考え、隔月で議論を重ねました。東海大会では全支部から委員が集まり議論をより深めることができました。CN セミナーは JIA の重要な発信の一つとしてより広くテーマを展開し、第四期 3 回を 8 月から 12 月に支部地域会の協力を得て開催しました。CN から LCA、WLCA (Whole Life Cycle Assessment) へより包括的な対策が求められる中、Embodied Carbon 評価のための議論を深めました。

2) JIA保存再生会議

本年度は、5 者協定にもとづく文化財ドクター派遣に関連する活動が多くを占めました。5 月発災の奥能登地震への対応が続く中、常滑大会での久々の顔を合わせての会議、踏み込んだ意見交換が出来たことは収穫でしたが、年明けの 1 月 1 日に能登半島地震が発生、現在もドクター派遣が続いています。本年度は協定の定期更新に伴う改定も行われ、地震で若干作業が遅れましたが、年度明けの 4 月 15 日に発効予定です。傘下の WG の活動としては、文化財修復塾 WG は、その持続的運営について、理事会と意見交換を行いながら制度改革に取り組みました。近現代建造物調査対応 WG では、昨年に引き続き、長野県と福島県で行われている緊急重点調査事業(文化庁)に JIA 推薦の調査員が参加し、報告書を取り纏めました。災害大国日本において、歴史的建造物を守るための、待ったなしの活動が続いています。

3) JIAまちづくり会議

JIA 建築家大会 2023 常滑において2つのプログラムの企画・運営を行いました。

1つめはイベントとして「脱経済成長とコモンを捉えた建築まちづくり」と題して、五十嵐敬喜氏、藻谷浩介氏のお2人にパネリストとして登壇いただきシンポジウムを開催しました。

2つめは地元の行政や学校、市民団体の協力を得ながら、実際に常滑市で会員、市民混合のまち歩きを行いました。5~6 人でチームを構成し、会員がファシリテーターを努めながらチーム毎に別々のコースを散策し、建築家目線、市民目線で街に溢れる様々な事象を拾い上げ、最後にそれを持ち寄って「たから」と「あら」に選別して改善策を提案、発表するワークショップを行いました。このファシリテーターを未経験の多くの会員にも体験してもらい、ノウハウを共有して全国へ持ち帰ってもらい、今後類似の活動を展開して、我々 JIA のまちづくり活動の活性化を期待します。

上記の企画・運営のために多くの実行委員会を開催しながら相互交流を深め、コロナ終息後を睨み、新たな活動の種を蒔く試行錯誤の1年でした。

4) JIA災害対策会議

関東大震災から 100 年の節目を迎え、「みやぎボイス 2023」の「震災復興を 100 年のパースペクティブで考える」というテーマのもと、今後の災害に備えた「事前復興」について議論の場を設けました。また常滑で開催された全国大会では、「非日常から日常を設計する」というテーマで、建築家は災害に備えてど

のような設計を行なえばよいのか議論しました。

元日に発生した令和6年能登半島地震では、現地災害対策本部とともに被災地の状況を調査し、支援活動などの方法について検討してきました。その一環として、オンラインによる緊急勉強会を開催し、これから迎える多様なフェーズに対して必要な知識を事前に得ることができるよう働きかけています。また今回の地震において、私たちが進める「災害対策支援ネットワーク」の有用性を再認識したところです。新年度を迎えるにあたり、各支部に備え付けのネットワーク名簿の更新に協力を依頼しています。

5) JIA建築相談連携会議

2023年秋の「JIA建築家大会東海 in 常滑」の大会ウィークで関東甲信越、北海道、東海、近畿、九州、沖縄の各支部が参加してWEB会議を行いました。私が委員長になって初めての会議開催です。各支部の相談件数、活動の流れ、相談活動の課題の有無、など報告しあい、その後に意見交換を行いました。各支部の置かれている状況によって、それぞれ特徴があること、各支部の建築相談委員会がその地域で社会貢献している様子が改めて認識できました。非常に大切なことだと感じました。関東甲信越支部では規約改正を行ったばかりでしたが、参考にしたいという支部にこれを契機に配布しました。

今後も、できれば毎年WEB会議を開催したいと考えております。

6) JIA住宅等連携会議

2023年度は、業務環境改善として「業務改善・コンペプロポ推進WG」を発足、また「小規模事務所のBIM推進WG」を立ち上げ、BIM活用が広がらない理由を把握し、いかにサポートができるのかを検討し、連続セミナーを計画してきました。社会発信ではインタビュー形式にて建築家の持つ多面的な役割や能力、社会的な課題の解決に取り組んでいる地域の建築家の活動を発掘し取材してきました。業務環境改善では告示98号の戸建住宅の業務報酬の改善に向けて協力してきた結果、新たに業務報酬基準告示第8号に改正されました。また昨今の環境問題等社会が大きく変化するなかで、シンポジウム「建築家、風土をデザインする」を開催しました。会員の議論の場、情報交換の場を作ることで、建築家職能の認知度向上と会員の意識の向上に努めました。

7) その他の活動

全国卒業設計コンクール実行委員会

2023年6月17日、建築家会館大ホール建築家会館大ホールに出品者が集合して、全国学生卒業設計コンクールを開催しました。

全国から選抜された優秀作品51点を審査し、金賞1作品、銀賞1作品、銅賞1作品、審査委員特別賞5作品を決定しました。

VII 支部長報告

1. 北海道支部(小西彦仁支部長)

2023年度は主に以下の事業活動を行いました。

- ・北海道の建築展2022 地方都市巡回展(旭川6月～函館8月～釧路10月)。
- ・支部ブログの継続。
- ・北海道アーキテクト発刊。構成変更検討。

- ・HK デザインアワード、北海道赤レンガ建築賞、JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール開催。
- ・旭川、函館、道東地区の活動支援。
- ・JIA 法人協力会との連携として新商品説明会や役員会前商品説明会の開催。
- ・北海道庁「きた住まいるビレッジ」事業の連携継続。
- ・建築関連団体との情報交換や協力を継続。
- ・札幌にデザインセンターを実現するための他団体との連携準備。
- ・北海道新美術館計画における情報収集。
- ・会員の業務に関するコンプライアンスの徹底のためのセミナー開催。

2. 東北支部(進藤勝人支部長)

今年度の JIA 東北支部の活動では、JIA 支部会員による東北 6 県持ち回りの建築展を、宮城を皮切りに各県で行いました。東北の建築家を知っていただく良い機会となりました。また、IUW2023「TOHOKU(東北)復興～建築と記憶」を行いました。宮城県七ヶ浜を対象とした「3.11」の貴重な体験・教訓を踏まえ、現状の壁を打破する創造的な提案を行う企画です。大学、まち、専門家、七ヶ浜の住人の方々、約 100 名が参加しました。今年度は新たな企画を行うことができ、充実した 1 年となりました。

[2023 年度の主な活動]

1) JIA 東北建築家フォーラム 2023

2023 年 5 月 12 日(金)13:00-18:10

【第一部】 第 2 回 JIA 東北建築大賞 2022 表彰式、審査員講評、大賞受賞者記念講演

【第二部】 「東北のこれからの建築について」

・基調講演Ⅰ「建築家が語り継ぐこと」 講師:山本理顕氏

・基調講演Ⅱ「東北の建築文化「これまで、いま、これから」 ～東日本大震災からの学校復興を軸として」
講師:長澤悟氏

・パネルディスカッション「東北のこれからの建築について」

パネリスト:山本理顕氏、長澤悟氏、佐藤尚巳 JIA 会長、六本木久志氏、西方里見氏

コーディネーター:進藤勝人東北支部長

2) 東北公共建築設計懇談会 2023 年 6 月 16 日(金)9:30-11:00

3) JIA25 年賞支部審査 ・東北管内での応募作品 3 作品 支部審査会 9 月 16 日(土)、10 月 11 日(金)

3 作品全て 25 年選として本部へ推薦。

4) 地域会対抗芋煮会 in 山形 2023 年 9 月 16 日(土)13:00-15:00 会場:山形市西公園

5) 巡回建築展「建築家の仕事」 東北6県の建築家の作品を一堂に会し、建築家たちの作品やプロジェクトの多様性とクリエイティビティを体感できる貴重な場として開催しました。各地域会において講演会やワークショップなどを組み合わせるなど工夫を凝らしました。2023 年 9 月-2024 年 2 月開催

6) 第 27 回 JIA 東北建築学生賞 2023 年 10 月 20 日(金)12:30-18:00

7) 第 15 回 JIA 東北住宅大賞 2023

第一次審査会 2023 年 11 月中旬提出書類確認、応募 27 作品全通過

第二次審査会 2023 年 12 月 8 日(金)11:00-18:15、第三次審査会 2024 年 3 月 2 日(土)-4 日(月)

最終審査会 2024 年 3 月 4 日(月)16:00-17:00、表彰式 2024 年 5 月 15 日(水)

8) 建築学生テクニカル・セミナー2023 2023 年 11 月 16 日(木)17:00-19:00

9) IUW (Inter-University Workshop) 2023 TOHOKU (東北)「復興～建築と記憶」

2023年11月18日(土)10:00-17:00

JIA 東北支部は、学生に対する建築教育の一環として会員を派遣し、講評会でのプロジェクト指導、シンポジウムへの参加をおこないました。学生への教育、専門的見地、地域的見地による助言、東日本大震災における活動や、復興事業の説明をおこない、関東、東北の学生に広く建築家の職能、地域の専門家としての職域を紹介し、建築教育に貢献しました。

10) JIA 東北支部新年会 2024年2月2日(金)17:30-19:30

11) JIA 東北学生卒業設計コンクール 2024 2024年2月20日(火)13:00-17:30 3作品を全国へ選出

3. 関東甲信越支部(渡邊太海支部長)

JIA 活動の基本は社会貢献だと思えます。快適で安全で美しく健康な建築をつくるのが公益に繋がり、建築家の定義や職能の確立につながるものであることを念頭に以下の活動に取り組みました。

1. JIA 活動の活性化と建築家の職能の確立の推進

快適で安全で美しい健康な建築をつくる建築家の発信と、一般の人の視点に立ち建築家とはどのような職業なのか、わかりやすく提示することに取り組みました。

- ・資格制度の現在の状況と今後について、総会後の会員集会(5/26、オンライン及び集合)、委員長・地域サミット(7/26、3/6、いずれも集合)等、多くの機会を設け会員間で議論しました。そこでは資格制度への関心の低さを少しでも解消し、建築家の定義や職能の確立について今後も議論していくことを確認しました。
- ・JIA の果たす役割について、新春の集い(1/17)会員集会で能登半島地震を題材に議論をしました。災害対策委員会の具体的な話や歴史的建造物の被害に対する建築家の役割など多方面に考えさせられる機会となりました。
- ・将来の建築界に欠かせない学生会員及び学生に対して、JIA の取り組んでいる姿を見せ興味を持つきっかけとして、学生会員の全国大会の参加や各地域会での卒業設計コンクールなど実施に取り組みました。

2. 建築家の職能及び資質の向上の推進

建築家が能力を十分に発揮できる環境に取り組みました。

- ・国交省からの情報をタイムリーに会員に発信できるよう常任幹事会でダイジェスト版を作り支部ホームページに掲載しました。
- ・建築家賠償保険(ケンバイ)加入の推進として、関東甲信越支部が主体となり地域会に呼びかけを行いました。事故事例勉強会を中心に今後も取り組む予定です。

3. 建築家が社会貢献しやすい組織づくりの推進

建築家が共に研鑽し、交流する場を整え、安定した継続体制を目指しました。

- ・会員集会、役員会は集合方式を基本とし、またコロナ禍で中断されていた交流委員会主催の交流大会も実施し、交流の場を積極的に設けました。
- ・支部構成や委員会、地域会規約について、年当初に委員長に説明し、組織の大切さを確認しました。
- ・本年度入会した会員に向けて、JIA活動に参加してもらうきっかけとし全国大会参加の支援や、会員集会、交流大会などのイベントに参加するプログラムを設けました。
- ・来年の全国大会を関東甲信越支部で取り組み、千葉を主会場とすることを決定しました。来年に向けて、

実行委員会準備委員会を立ち上げ、JIAらしい全国大会を模索しています。

4. 東海支部(大瀧正也支部長)

2023 年度は、コロナ禍から日常に戻る時期と重なりました。その中、東海支部の事業活動と致しましては、集合・対面方式の復活等、コロナ禍以前の日常的な事業活動を再開致しました。私自身としても出来るだけ実際に参加することを課しており、支部事業、地域会事業にも参加して参りました。そのため各事業関係者、参加者との関係は非情に密なものであったと自負しております。また一方、WEB を利用した会議形態も魅力が有り、今後も重要なツールとして継続活用されていくと思っています。

さて、東海支部の各活動の骨格と致しまして、佐藤会長のいう「頼りになる建築家、頼りになる JIA」の推進のため、事業を通じ、マスコミを利用した PR 活動を進めて参りました。また、JIA が社会的に認められるよう、建築家資格制度の再構築と理解を得るため話し合いがスタート致しました。

このように、不慣れな中、こうして 2 年間の任期を無事に務めることが出来たのも、支部会員の皆様の多大なご支援のおかげとたいへん感謝申し上げます。以下に年間を通じての主要な事業についてご報告致します。

(1) JIA 建築家大会 2023 常滑の開催。

「JIA 建築家大会 2023 常滑」が 11 月 9 日から 11 日まで常滑で 570 名を超える参加者を得て開催されました。「環る」(めぐる、まわる、かえる、よみがえる)をテーマのもと、大会ウィーク、本大会、メインシンポジウム、その他多くのイベントにつぎまして、テーマに沿った企画運営、実施がなされました。ウェルカムパーティー・まち歩き等 降雨により残念な場面もありましたが、山車の曳き回し、木遣等参加者の心を打つ内容で、雨とともに記憶に残る内容となりました。これも、小田大会委員長、浅井実行委員長、関口幹事長をはじめとする支部役員、事業委員の皆様にご感謝申し上げます。また開催にあたり、法人協力会の皆様、会員・個人の皆様に多くのご協賛を頂きましたことを合わせてお礼申し上げます。

(2) 「ARCHITECT」誌の発行

(3) 第 28 回 JIA 東海学生卒業設計コンクール

(4) 第 10 回 JIA 東海住宅建築賞

(5) 第 39 回 JIA 東海支部設計競技「超空想住宅へ」

各継続事業につぎましては、集合・対面方式による開催を実施いたしました。特に東海住宅建築賞は、現地審査による二次審査を実施することが出来ました。まだまだ自由にならない中、事業が開催できたのは各事業委員長、委員の皆様及びご協賛いただきました皆様・各社のおかげとたいへん感謝申し上げます。

(7) ゴールデンキューブ賞の審査会・表彰式・運営

ゴールデンキューブ賞(こどもを対象とした建築/まちづくりの教育活動)本部委託事業として東海支部が企画運営、審査会・表彰式を実施しました(2022 年度)。4 チームが選出され、その後の「UIA ゴールデンキューブ賞」において最優秀賞と特別賞を受賞するという特別な大会となりました。

5. 北陸支部(堂田重明支部長)

2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分、誰もが新しい年の平穏と多幸を願う元旦に、石川県能登半島を大地震が襲いました。昨年 5 月 5 日同じ能登地方を震源とする震度 5.5 強をはるかに超える、最大震度 7 の大地震が発生し、死者 245 人、全壊家屋約 8,800 棟、半壊家屋約 20,000 棟にのぼり、日本でも極めて稀に発生

する大地震となりました。

今回の地震の特徴は、地盤の液状化現象と長周期地震動が重なって、家屋の倒壊被害を大きくしたようです。JIA 本部の指示を受けて北陸支部に対策本部を設置し、建築設計三会 (JIA、建築士事務所協会、建築士会) 合同で、応急危険度判定、住宅相談、罹災証明二次調査の支援を行ってまいりました。今回の地震で被害の大きかった石川県では、石川地域会が中心となり、「情報と活動のプラットフォーム」づくりとして、能登復興建築人会議を立上げて、復興支援として行動を起こしたところです。このように地震発生時以降、従来の活動に少なからず支障をきたしましたが、会員一丸となって活動に取り組んできました。活動を振り返って感じたことは、コロナ禍を機に会議のリモート化、そしてオンライン形式によるセミナーは、全国から多くの人に聴講してもらえることができ、費用や効率化の面からも有益であり、オンライン形式が主流となっていくと思われませんが、反面、対面形式も定期的に行う必要性を感じています。

各地域会では毎年継続している事業「子供セミナー、学校支援、建築賞技術フォーラム、学生支援」はそれなりに成果も出ており、これからも続けていくべきだと思います。

また新たに、JR 駅のコンコースで行った一般向け「若手建築家と学生との公開トークイベント」も好評で、マスコミにも取り上げられ、今後も続けていきたいと思っております。

[本年度の主な活動]

1) 総会

5月20日「富山市民プラザ」にて開催しました。各議案について異議なく承認されました。

2) JIA 学生卒業設計コンクール北陸支部審査会

5月21日「富山市民プラザ」にて開催しました。10名の審査を行いました。

3) JIA 北陸支部大会 2023in 富山

5月20日21日「富山市民プラザ」にて開催しました。

- ・記念講演(石上純也氏)
- ・対話集会(佐藤尚巳氏)
- ・特別講演(木村吉成氏、神田篤宏氏、能作文徳氏)

4) その他

支部役員会、支部建築家資格制度実務委員会、支部会計監査・懇親会・能登半島地震勉強会を行いました。

6. 近畿支部(松尾和生支部長)

コロナ禍の記憶をどこかに置き忘れたかの様な 2023 年度は、急速な円安が進み、資材高騰、物価上昇の著しい年であった様に思います。輸出企業はその恩恵も受け空前の営業益となっています。建設物価上昇と社会の価値観変動は日本社会に大きな影響を齎し、大小を問わず、建設計画の予算上に多大な影響を齎しました。そんな中での元旦に起こった能登半島地震の揺れは、これまでの大地震に同じく、生涯忘れられぬ記憶として脳裏に刻まれました。リアルな自然災害に対し、オンラインで直ぐに情報は入りながら、実際に動けぬ歯がゆさを感じた方も多いと思います。そんな現在社会の狭間で、建築家の活動や社会的役割は、コロナ禍前よりも重責になった様に感じています。同時に AI の進化も著しく、リアルと仮想空間とのギャップは、益々混沌としてゆくことが予想されます。そんな中、社会がリアルな建築家職能を必要とし、再認識始めたことも少しずつ感じる一年でもありました。

大災害の続くこの半世紀、公益社団としての JIA に社会が求めることは何なのか、今一度、再整理する時

の様にも思え、有事に対する備えをいかに準備するかが大切であると思われ知らされます。それに加え、少子高齢化の波は、JIAにも多大な影響を齎し始めています。この著しい社会変化と価値観の変化には「新時代」の公益活動に対応する組織的变化も望まれます。社会が建築家職能を真に必要とし始めている昨今、JIAとしての組織的環境整備が急がれる時なのでしょう。社会の大きな変革期にも JIA として柔軟に対応してゆくことが、「頼れる建築家」として真の意味で社会が必要とされ、社会により認知されてゆくことにも繋がるのではないのでしょうか。

〔2023 年度 主な事業活動〕

- ①学生コンペによる近畿支部事務局会議室(綿業会館)のリニューアル完成【学生委員会】
- ②HP リニューアル、table3 発刊、メールマガジンの発行(12 回)【広報委員会】
- ③建築家に知って欲しいシリーズセミナーの開催【協力会員委員会・マスターズ委員会】
- ④JIA-K2 CUP、忘年会の開催、カタリストの発行【協力会員委員会】
- ⑤Learning salon (勉強会)の開催【役員会】
- ⑥日韓中建築団体との協力事業(釜山国際建築大展、KIA 釜山、天津建築学会)
- ⑦支部大会京都を上七軒歌舞練場で対面開催
- ⑧「DIPLOMANIA」卒計コンクール入賞者の講評会の開催【青年委員会】
- ⑨第 14 回関西建築家新人賞の実施【表彰委員会】
- ⑩卒業設計コンクールの開催【建築教育研究会】
- ⑪アーキサロン「JIA 建築家×環境」を開催【環境委員会】
- ⑫第 13 回景観まちづくりフォーラム開催、「湖国すまいの見聞録」出展など【滋賀地域会】
- ⑬支部大会京都を実施、建築と子供たち、地域会作品展の開催など【京都地域会】
- ⑭アーキテツカフェ、ミニポートタワーをつくろう、歴史的建築物セミナー開催など【兵庫地域会】
- ⑮役員会勉強会、建築相談室、弁護士勉強会開催など【大阪地域会】
- ⑯徳島地域会との交流、大和ハウス工業の設計者とのコラボ事業、見学会開催など【奈良地域会】
- ⑰JW-1 グランプリ 2023、第 2 回タテモノノチカラ展、建築相談室、第 7 回きのくに建築賞、会員勉強会開催など【和歌山地域会】

7. 中国支部(武田賢治支部長)

今年コロナ禍以前に近い状況が戻ってきているように見えます。先日も JIA 中国支部の研修として韓国ソウルの建築見学に出かけましたが、これもそのような状況の中で可能になった活動の一つと思います。またオンライン化が進み、中国支部でも対応をすすめ会議等の合理化を図っていますが、集合形式をも残し、対面での交流の良い点も残すようにしてきています。議論の方向が明確な事柄や情報伝達を中心にした場合にはオンライン化で十分に対応できますが、意向聴取や意見交換などの場合には、やはり対面での集合形式が功を奏しているように思えます。

以下、本年の主な活動状況をまとめます。

- 1) 支部定時総会は集合形式で開き、佐藤会長のお話をも交え、会員の皆さまとの交歓の場を設けることが出来ました。登録建築家制度についての議論も進められ、今後まとめられていくものと思います。
- 2) 9 月には、保存再生委員会主催の「文化ホールを時代を超えて使うには」と題し、講師に宮本佳明氏、コーディネーターに笠原一人氏をお迎えし、一般参加型のシンポジウムを開催しています。旧八幡市民会館のコンバージョン計画等をもとに保存の可能性等についてお話をお聞きました。

- 3)「JIA 中国支部建築家大会 IN 下関 2023」は例年通り11月に、山口県下関市で開催されました。バーチャル建築家 番匠カナ氏による「バーチャル空間は“建築”か?」、吉田浩司氏による「夢を現実に変える力～BIMを介した建築の未来～」と題した講演をいただき、その後山口地域会の山本道善氏をファシリテーターとして、トークセッションを行い、これからの建築の在り方の一つを聞くことが出来ました。その翌日には「第15回 JIA 中国支部建築大賞 2023」の入賞者発表、表彰式も行われ、支部活動の2本柱が無事に終了しております。
- 4)数年前に開催されていた「海外研修ツアー」がやっと戻ってきました。2024年3月に建築研修旅行として、ソウルの建築やまちを中心に見学してきました。伝統的な王朝建築をはじめ、トンデムンにあるデザインプラザや郊外のみメーシスアートミュージアムなど、現代建築も見学することができ、韓国の建築文化のいにしえと現在を体験することが出来ました。
- 5)全国卒業設計コンクールへの作品出展支援「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2023」は無事に開催でき、6月の全国学生卒業設計コンクールへの参加作品を推薦しています。
- 6)他支部との支部間交流などの活動は出来ておりませんが、今後の活動になるものと思います。
- 7)公益社団法人として、各種活動の中でも災害発生時への対応は重要な観点で、本年1月に発生した能登半島地震に対する支援を第6回役員会にて決定し、中国支部から北陸支部へ、広島地域会から石川地域会へ支援金を拠出しています。今後地元支部等からの要請があれば、被災地支援やまちづくりへの協力支援も行う必要があります。また役員会ではこれを機に、中国支部内での緊急時の連絡体制や行政機関との協力体制など、災害発生時に速やかな対応が取れるように、体制の再確認も必要ではないかとの意見があり、支部災害対策会議等を中心に再確認を行う予定です。

8. 四国支部(伊月善彦支部長)

2023年度、社会全般もようやく平常運転になりホッとしたのも束の間、我々の業界を直撃する建設物価の高騰に見舞われ地方・都心とも皆大変苦心を強いられていると感じています。また、23年元日には「令和6年能登半島地震」も発災し北陸支部におかれましては多大な苦勞・心労をおわれ、メンバー一同より一層災害対策に真剣に向き合わざるを得ない環境になりました。それに伴い、のちに東南海地震を控えるであろう四国支部では今回の災害によって地域会同士の結束と連携が強固になった年度後半でもありました。委員以外も積極的に災害対策会議等に参加するなど、支部での連携が全国に広がるという良い機会になったのでは?と思います。こういった社会情勢において建築家の職能、役割をより強く意識することにより「頼れる建築家」として JIA が認知され地域・社会と共生する活動に繋がる1年になったのではないのでしょうか。

[2023年度主たる事業活動]

- (1)JIA 四国支部大会 in 愛媛 5月27日、伊予市立翠小学校にて開催

基調講演

第一部 講師:伊香賀俊治氏

「ライフサイクルカーボンマイナス・ウェルネス建築への挑戦ー学校の木造化・木質化の効果検証からー」

第二部 講師:三分一博志氏

「建築は未来への手紙」

- (2)第一回・第二回カーボンニュートラルセミナー開催

- (3) JIA FORUM in Ehime 2023 開催

第1回「木子七郎の建築と愛媛」

第2回「愛媛・松山の建築が映す人々」

第3回「愛媛の近代土木・建築遺産を語る」

(4)こどもけんちく学校 開催 「ワークショップ萬翠荘のステンドグラスを作ろう」

(5)「日土小学校の校舎ガイド」

(6)防災イベント「地震はどうする ○○しててよかった」

(7)四国デザインフュージョン 開催

(8)近畿支部大会(京都)表敬参加+交流会

(9)奈良地域会との交流会

(10)おさまり放浪記 Vol6 徳島編 開催 木村吉成、伊藤暁、伊月善彦他四国メンバー登壇

(11)第8回高知県建築文化賞の開催

9. 九州支部(松山将勝支部長)

九州支部長として最終年度を迎えた今年度は、テーマとして掲げた「未来への結束」への集大成と位置付け、JIA の未来に向けた活動を精力的に推し進めて参りました。今年度に創設した「九州建築新人賞」は、九州を拠点とする若き建築家の登竜門として新たな評価軸となり、これからの九州建築界をリードする建築家を輩出する事を目的としてスタートしました。本賞をとおして活発な建築討論の場を生み出し、志を高く持つ九州の若き建築家たちが切磋琢磨しあう場所となるよう、今後も九州建築新人賞を育てて参りたいと思います。その他、小学生を対象とした「エコルサポート事業」、高校生を対象とした「高校生レポーター事業」、大学生を支援する「学生デザインレビュー」、建築設計事務所に所属する若手所員を対象とした「九州建築塾」など、九州支部は今後も未来に向けたさまざまな活動を推し進めて参ります。

1)九州建築新人賞

第1回目となる九州建築新人賞は、9月から応募を開始し九州全域から42作品の応募がありました。その後、2次審査に通過した10作品にて現地審査を実施し、3月8日に開催された最終審査会にて、2名の建築家が第1回九州建築新人賞に決定しました。最終審査会後の4月13日には、審査員と現地審査に選出された若手建築家による「九州建築新人賞公開シンポジウム」を開催予定です。受賞者決定後に、審査の過程や作品の評価を明らかにする場合は、こうした建築賞に中でも初めての試みだと思います。今後もこうした公の批評性を持った建築議論の場を創出して参ります。

2)JIA九州建築塾 in 鹿児島

今年で23回目を迎える九州建築塾は、鹿児島地域会主導のもと9月21日～23日の2泊3日にて鹿児島県指宿市で開催され、九州全域から19名の塾生が参加しました。最終日には4グループによる発表と講評会が行われ、講師と塾生による活発な議論が交わされました。建築設計事務所に所属する若手所員の塾生たちにとっても大変貴重な経験であったと思います。

3)デザインレビュー2024

今年で29年目を迎えた学生デザインレビューは長年、九州支部がサポートしている事業です。今年度は、全国の大学生から338作品の応募があり、本選に残った60作品にて公開審査が行われ2日間に渡り、建築家5名のクリティークと学生による白熱した議論が交わされました。

4)支部長漫遊記

各地域で精力的に活動している若手建築家が自作を語り、本気で建築を議論する場として、2021年にスタートした「支部長漫遊記」は、支部長が九州支部全8地域会を訪ね、総勢37名の若手建築家と対話を重ねて参りました。2月17日には支部長漫遊記総括討論会を開催し、九州全域から若手建築家が集結し、自身がめざす建築家像や今後の展望についての発表を行い、九州建築界の未来について語り合いました。

10. 沖縄支部(伊良波朝義支部長)

2023年度の通常総会において3期目の拝命を受け、新しい役員も加わり新体制でのスタートとなりました。支部長就任時から「頼れるJIA」、「学べるJIA」、「楽しめるJIA」を基本理念に掲げ、これまで毎年継続してきた公益事業を中心に、新型コロナウイルス感染症により中止してきた事業も5類への移行に伴い、「沖縄未来建築塾」や「国際交流事業」を再開する等、支部活動を活発に推進して参りました。特に新規事業として「現名護市庁舎のこれからを考える会」や「与那原町商業地区まちづくり計画(委託事業)」は、まちの将来像を市民と共に考える有意義な公益事業として、今後も積極的に継続して取り組んで参りたいと思います。

本年度も日々変化する社会環境に応え、地域に根ざした公益事業を展開し、社会から信頼され頼られる建築家、JIAとなるよう、また引続き若手育成にも積極的に貢献して参りたいと思います。

[2023年度の主な事業活動]

1) 「機関紙かぬち」27号発刊(通年事業)

1年間の支部活動を網羅する機関誌(海外対応英訳版)

2) 「第6期沖縄未来建築塾」(2023年7月～2024年2月)

テーマ:まちづくりに関わろう・素材と環境を考えよう

与那原町商業地区まちづくり計画へ塾生が参画し、まちの将来像について提言

3) 「国際交流事業」(2024年2月21日～25日)

会員・非会員含め17名が参加し、台中・台南・高雄を中心に視察や建築関係団体と交流

4) 「第27回卒業設計作品選奨公開審査」(2024年3月2日)

短大・専門・専修学校部門7点、大学部門10点、応募総数17点

5) 「現名護市庁舎のこれからを考える会」(通年事業)

建築設計三会(日本建築家協会沖縄支部、沖縄県建築士会、沖縄県建築士事務所協会)で構成

6) 「第9回沖縄建築賞」公開審査(2023年9月3日)

建築設計三会・タイムス住宅新聞社との共催、審査委員長古谷誠章氏

住宅部門15点、一般建築部門9点、応募総数24点

7) 「公共建築の日・公共建築月間講演会」(2023年11月15日)

平良啓氏「首里城正殿の復元」～伝統木造建築物の復元と安全確保は如何にしてなるか～

8) 「第12回ティーダフラッグス2023 沖縄県総合運動公園オートキャンプ場キッチンハウス」

公開審査(2023年1月25日)県主催、建築設計四会と共催し審査委員として参加、応募総数39点

9) 毎年開催している「建築展」、「建築記念講演会」は、現名護市庁舎のこれからを考える会のイベントと関連しての開催となるため次年度へ持ち越し